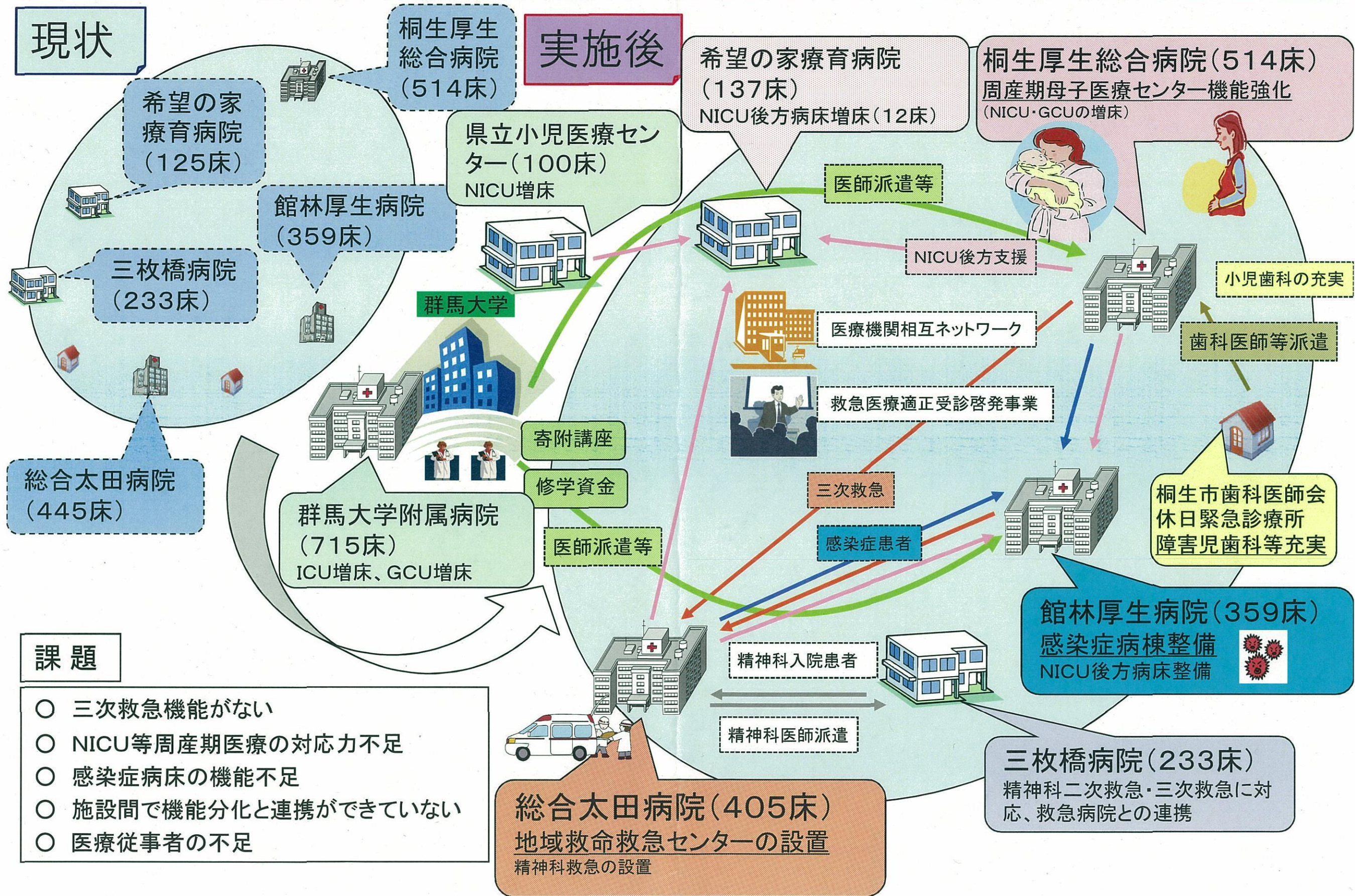


群馬県地域医療再生計画(東毛地域:三次救急・周産期医療等に重点化)



東毛地域における課題を解決する方策

1 課題を解決する方策

- ① 課題：地域内に三次救急機能がない。また、県全体として三次救急受入率が低い。
目標：救命救急センターを地域内に設置するとともに、県央部の三次救急機能も強化する。
対策：三次救急機能強化事業（8.9億円）
（1）総合太田病院に地域救命救急センターを設置し、地域内の三次救急患者を受入る。
（2）群馬大学附属病院のHCUをICU化（13床）し、三次救急受入率を向上させる。
※ 東毛地域に地域救命救急センターを設置するとともに、県央部の三次救急機能の拡充を図ることで、地域内・県内での患者受入を可能にする。
- ② 課題：地域周産期母子医療センターの応受不可能日が年間の半数以上に達している。
目標：（1）地域内のNICU、GCU及び後方支援病床を整備する。
（2）総合周産期母子医療センター等のNICU、GCU等を整備する。
対策：小児・周産期医療充実・強化事業（10.3億円）
（1）桐生厚生総合病院の地域周産期母子医療センターのNICU（3床）、GCU（3床）の増床等を行う。
（2）NICUの後方支援病床として希望の家療育病院の増床（12床）を行う。
（3）館林厚生病院にNICU後方支援病床を整備する。
（4）総合周産期母子医療センターである県立小児医療センターのNICU（3床）を増床する。
（5）群馬大学医学部附属病院のGCU増床（5床）のため施設整備を行う。

東毛地域における課題を解決する方策

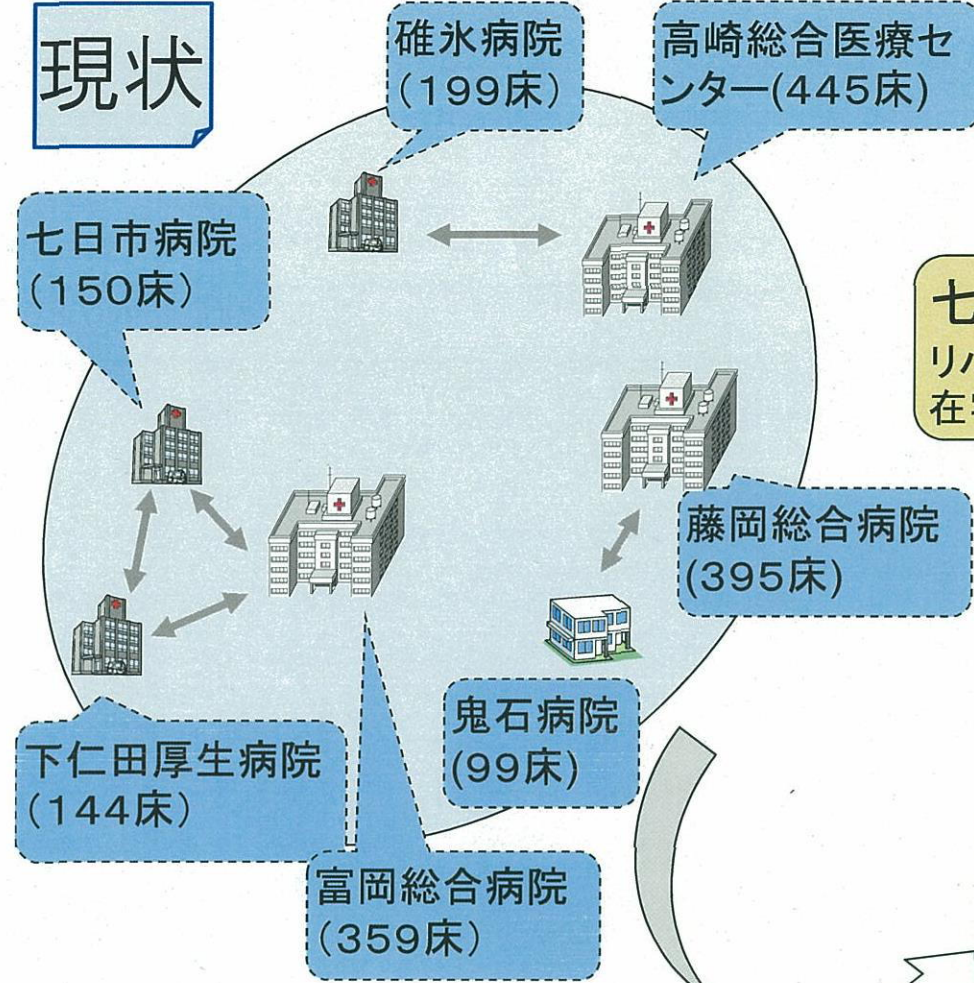
- ③ 課題：新型インフルエンザ等に対応する感染症病床の設備が不十分
目標：地域内の感染症病床の機能を向上させるとともに、緊急時に感染症病床として活用できる病床を整備する。
対策：館林厚生病院感染症病床等整備事業（4億円）
（1）地域内の感染症指定医療機関である館林厚生病院の感染症病床（6床）を、陰圧化等に対応できる病床に整備する。
（2）館林厚生病院内に、緊急時に感染症病床として活用できる病室（10床）を整備する。
- ④ 課題：産婦人科、小児科等地域内の病院の医師不足が生じている。
目標：医師不足の解消
対策：群馬大学と連携した医師確保事業（6.7億円）※うち6.5億円は西毛地域に計上
（1）群馬大学の定員増に合わせ地域医療枠を拡大（12名）し修学資金を貸与する。
（2）群馬大学に地域医療人育成の寄附講座を設置し、地域医療に貢献する人材の育成と基幹病院等の医師確保を図る。

2 地域医療再生計画終了時の姿

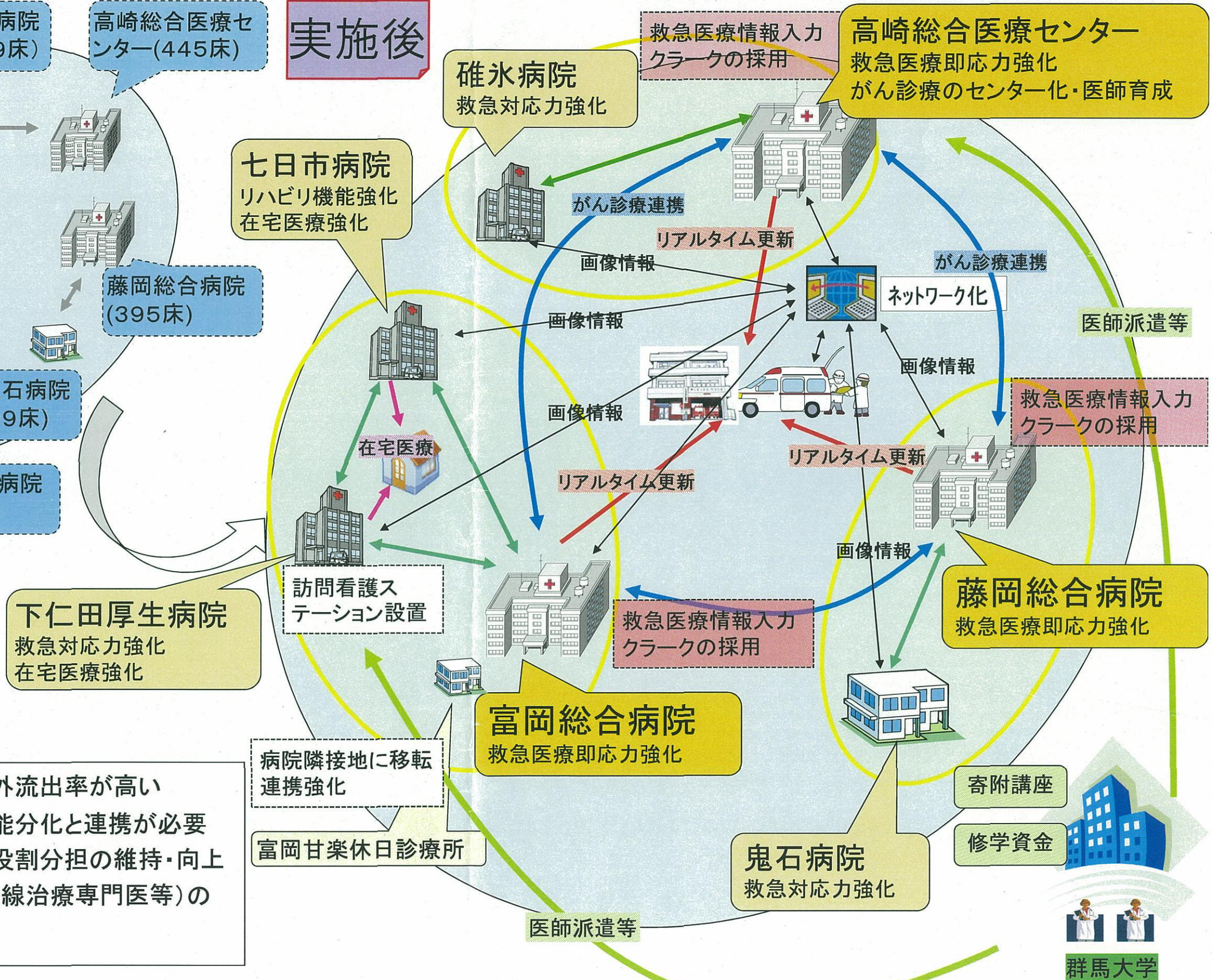
東毛地域においては、地域救命救急センターが設置され、地域周産期母子医療センターの充実や感染症病床の整備が行われ、並行して医師確保が進み、基幹病院間の役割分担と連携が強化され、各課題が解決に向かう。

群馬県地域医療再生計画(西毛地域:救急医療等に重点化)

現状



実施後



課題

- 救急患者の地域外流出率が高い
- 基幹病院間の機能分化と連携が必要
- 保健医療圏内の役割分担の維持・向上
- 医療従事者(放射線治療専門医等)の不足

西毛地域における課題を解決する方策

1 課題を解決する方策

① 課題：救急患者（特に脳血管疾患患者）の地域外流出率が高い。

目標：地域内病院及び消防との連携強化、施設設備充実等により、救急患者の地域外流出を等を減少させる。

対策：救急機能強化事業（12.2億円）

(1) 専任の事務職員を配置し、救急患者受入情報を24時間リアルタイムで入力し、消防本部や救急隊に情報発信する。

（高崎総合医療センター、藤岡総合病院、富岡総合病院）

(2) 地域内の基幹病院間で画像情報を共有できる救急医療情報ネットワークを整備する。

(3) 地域基幹病院の医療連携及び医療提供体制強化に必要な施設・設備整備

（藤岡総合病院、碓氷病院、下仁田厚生病院、鬼石病院）

(4) 急性期病院の後方支援のため、七日市病院のリハビリテーション施設を整備

(5) 基幹病院の軽症患者負担軽減のため、富岡甘楽休日夜間診療所を富岡総合病院隣接地に移転整備

② 課題：放射線専門医及び医師育成病院の不足

目標：地域内中核病院の役割分担と連携を図ることで、地域内に高度放射線治療のできる病院を確保し、大学と連携して放射線専門医の育成を図る。

対策：基幹病院間の役割分担・連携による放射線治療専門医育成事業（6.3億円）

中核病院（高崎総合医療センター、藤岡総合病院、富岡総合病院）間の役割分担と連携を図り、高崎総合医療センターに高度放射線治療装置を導入することで、群馬大学と連携して放射線治療専門医の育成を図る。

西毛地域における課題を解決する方策

③ 課題：碓氷病院や下仁田厚生病院で医師不足や診療科の休止が生じている。

目標：医師不足の解消

対策：群馬大学と連携した医師確保事業（6.7億円）※うち0.1億円は東毛地域に計上

(1) 群馬大学の定員増に合わせ地域医療枠を拡大(12名)し修学資金を貸与する。

(2) 群馬大学に地域医療人育成の寄附講座を設置し、地域医療に貢献する人材の育成と基幹病院等の医師確保を図る。

2 地域医療再生計画終了時の姿

西毛地域においては、中核病院の応受情報をリアルタイムで発信する体制を整えることで消防機関の搬送がより円滑になるとともに、各基幹病院間の画像情報伝送システムの整備や施設・設備整備により、救急医療への対応力が増し、救急患者の地域外搬送が減少する。また、中核病院間の役割分担と連携によりがん診療について、医師確保が難しい中でこれまで以上の高度な治療の提供と大学と連携した放射線治療専門医の育成が進められ、各課題が解決に向かう。